

職務経歴書

20XX年XX月XX日

氏名 静楽 太郎

【職歴要約】

株式会社〇〇では組み込みエンジニアとして約5年間、産業機械の分野で制御系システムとソフトウェア開発に従事し、要件定義から設置後のサポートまで横断的に経験しました。その後に入社した株式会社△△では現在まで、IoT分野の組み込みエンジニアとしてシステムとソフトウェア開発、納品後のサポートなどに従事しています。

【職務経歴】

会社名：株式会社△△ 事業内容：DX事業におけるシステム開発・運用・保守・常駐支援 設立：19XX年 資本金：X億円（19XX年XX月） 売上高：XXX億円（20XX年度） 従業員数：XXXX名	
期間	業務内容
20XX年XX月～ 現在	<p>■プロジェクト概要 IoT関連システムおよびソフトウェアの開発・運用・サポート。</p> <p>■担当業務・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・機械、機器、ツールの導入支援、要件定義。・組み込みシステム、ソフトウェアの開発、設計、運用。・設置後サポート、納品後のアフターケア。・チーム内の勉強会、新人研修。 <p>■実績・成果</p> <p>20XX年度 事業部売上 XX億円（前年比108%） 20XX年度 事業部売上 XX億円（前年比111%） ※貢献賞を受賞</p> <p>■開発環境</p> <p>【OS】Linux・ITRON 【言語】C++・JavaScript・Assembler・Python</p>
会社名：株式会社〇〇 事業内容：機械・機器、部品の設計製造販売・常駐支援・受託業務 設立：20XX年 資本金：X億円（20XX年XX月） 売上高：X億X千万円（20XX年度） 従業員数：XXX名	
期間	業務内容
20XX年XX月～ 20XX年XX月	<p>■プロジェクト概要 溶接機、穴あけ切断機等の制御システムおよび、基盤設計用CADとの連携ソフトウェアの開発。</p> <p>■担当業務・取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・企画提案と要件定義（営業部・デザイン室と連携）・開発・詳細設計（Windows CE、Linux Red Hat、ITRON）・設置後対応（営業と連携してのアフターサポート）・研修として社内勉強会を企画（研修資料作成・講師）

	<p>■実績・成果 開発では営業部と連携して要件定義から取り組み、その後も担当者としてお客様対応に当たる。お客様からの疑問点を Q&A 化して Web 上に展開し、わかりやすく読みやすいと社内外から評価をいただいた。</p> <p>■開発環境 【OS】 Windows・Linux・ITRON 【言語】 C++・JavaScript</p>
--	--

【活かせる経験・知識・技術等】

- Web サイト、PC、電子工作等の自作・設計・デザイン
- 組み込みシステムの設計・運用、アフターサポート（産業機械、IoT）
- アプリケーション、ツールの導入支援、研修・勉強会の企画・開催
- 顧客対応（営業・デザイナーとの連携、要件定義・設計・開発・納品後対応）

【資格】

- 基本情報技術者試験（20XX 年 XX 月合格）
- 応用情報技術者試験（20XX 年 XX 月合格）
- ETEC クラス 1（20XX 年 XX 月取得）
- TOEIC Listening & Reading Test XXX 点（20XX 年 XX 月合格）

【テクニカルスキル】

分類	スキル名称	経験年数・レベル
OS	Windows	(X 年 X カ月) 環境設計・構築が可能
	Linux	(X 年 X カ月) 環境設計・構築が可能
	ITRON	(X 年 X カ月) 環境設計・構築が可能
言語	Python	(X 年 X カ月) コード記述および指示・改修が可能
	C	(X 年 X カ月) コード記述および指示・改修が可能
	JavaScript	(X 年 X カ月) コード記述および指示・改修が可能
	C++	(X 年 X カ月) 状況に応じてコード記述が可能
	Ruby	(X 年 X カ月) 状況に応じてコード記述が可能
	Assembler	(X 年 X カ月) 状況に応じてコード記述が可能
	MicroPython	(X 年 X カ月) 状況に応じてコード記述が可能

【自己 PR】

開発では要件定義の打ち合わせからチーム運営、進捗管理、仕様説明のプレゼンも行うことで設計から実装までを横断的に経験しています。これらの打ち合わせから見いだせる情報を開発環境にフィードバックすることで、実機における最善の開発を心がけています。また、チームで開発を進めるうえでは、開発の確実性と安全性とともに、新人への配慮を常に心がけています。特に実機検証を新人教育に盛り込むことで経験と情報を共有することでチーム全体の能力向上に貢献できました。

以上